

# プログラム近況報告

World Vision

この子を救う。未来を救う。

エルサルバドル共和国 サンアグスティン地域開発プログラム(SLV-190776)

2013年度(2012年10月1日～2013年9月30日)

## 子どもたちの健やかな成長を「子育て指導員」が支えています

サンアグスティン地域開発プログラム(以下、ADP)では、ほかの国のADPとは少し異なり、子どもの年齢と成長に合わせた形で各プロジェクトを計画しています。特に乳幼児期にどのような栄養をとり、どのような健康状態であったかは子どものその後の発育に大きな影響を与えるため、0～6歳を対象とした事業はADPの中でも大変重要な役割を果たしています。地域内では「子どもの健康・栄養状態改善サークル(以下、CBSN)<sup>\*</sup>」の数が30にまで達し、各サークルに参加する親たちの中から「子育て指導員」が選ばれ、栄養バランスのとれた食事の調理方法、母乳育児、予防接種、呼吸器疾患や下痢の予防・対応方法など、健康管理全般に関する知識がほかの親たちへと普及されています。ワールド・ビジョンでは、日本にスポンサーがいるチャイルドだけでなく、地域の子どもたちすべてに支援を届けたいと願っていますが、「子育て指導員」はその願いを実現するために、ともに働いてくれている私たちの大切なパートナーです。

※CBSN：Circuitos de Buena Salud y Nutrición というスペイン語名の略



CBSNに参加し、栄養バランスのとれた食事をする子どもたち



ADPの研修を受けた子育て指導員が、地域の5歳以下の子どもの体重を計測している様子

## チャイルド・スポンサーの皆さま

日ごろより、チャイルド・スポンサーシップを通して、温かいご支援を賜りまして、心より感謝申し上げます。

2013年度の活動報告として「プログラム近況報告」と、チャイルドの「成長報告」をお届けいたします。昨年度も活動を進めることができましたのは、子どもたちを思い、継続的にご支援をくださる皆さまのおかげと、感謝しております。

この1年の地域支援における活動の成果、今後の課題をご確認いただくとともに、チャイルドの成長をともに喜んでいただけますと幸いに存じます。

皆さまのチャイルド、そしてすべての子どもたちが健やかに成長できる地域となることを目指し、活動を続けてまいります。

皆さまの尊いご協力を、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



特定非営利活動法人  
ワールド・ビジョン・ジャパン  
常務理事・事務局長

片山 信彦

## ADPマネージャーからのごあいさつ

子どもたちやその家族、地域の人々の生活に喜びの種を蒔くことができることを感謝するとともに、サンアグスティンADPより、このように皆さまにごあいさつできることを、心より嬉しく思います。

日々の仕事の中で、子どもたちが健康に遊び、走り、幸せそうに学校に通っている姿を見ることは大きな喜びです。私たちADPスタッフは、村々を訪れ、そこに住む人々が抱える問題や必要に対する解決策をともに考えていますが、そのときにいつも思われることは、日本の皆さまからのご支援なくして私たちの働きは何も実現できないということです。これからも皆さまのご支援をさらに多くの子どもたちに届けていくとともに、スポンサーの皆さまにも、よりご満足いただける活動を進めていきたいと思っております。

フェリックス・ロダス (サンアグスティンADPマネージャー)



## 0～6歳を対象とした事業

エルサルバドルでは行政が就学前教育を公教育の一環として提供することになっているものの、現実には約55%の子どもたちにしか就学前教育が行き届いていません。これはほかのラテンアメリカ諸国の平均が、約70%であることを考えても非常に低い値です。サンアグスティン地域では、ADPにより7つの就学前教育センター(幼稚園に相当するもの)が整備され、就学前教育を受ける子どもたちの割合が、支援開始当初の53%から63%に向上してきました。この値もまだ十



就学前教育センターで学ぶ子どもたち。小学校での生活や勉強に抵抗なく慣れるためにも、就学前教育は非常に大切です



学校に備え付けられた水タンクと子どもたち

分とは言えず、引き続き就学前教育センターへの教材提供、教師への研修、親や保護者に対して教育の重要性を説く啓発活動などに力を入れていきます。

また、今年度は地域内の学校(就学前教育センターと小学校)に対して、水のタンク(容量:450リットル)を支援しました。生徒数に対して飲用および手洗い用の水が不足していることをADPスタッフが聞き、今回の支援に結びつきました。子どもたちの健康状態の改善につながると、学校関係者や保護者たちから、支援に対する感謝の声が多く寄せられています。

### 会計報告

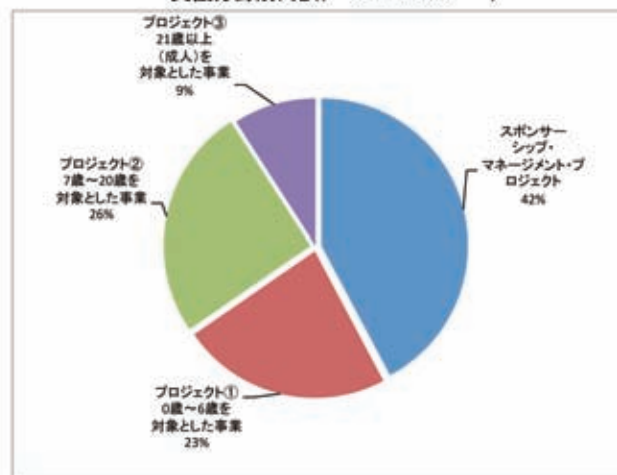
#### 収支計算書

自 2012年 10月1日 至 2013年 9月30日

SLV-190776  
(単位:円)

プログラム支援額	
チャイルド・スポンサーシップ	26,955,936
当期支援額	26,955,936
前期繰越金	-89,197
プログラム支援額合計	26,866,739
プログラム支出額	
スポンサーシップ・マネージメント・プロジェクト	10,753,728
プロジェクト①0歳～6歳を対象とした事業	5,900,618
プロジェクト②7歳～20歳を対象とした事業	6,488,015
プロジェクト③21歳以上(成人)を対象とした事業	2,318,853
プログラム支出額合計	25,461,214
次期繰越額	1,405,525

#### 支援分野別内訳( SLV-190776 )





## 7～20歳を対象とした事業

今年度も、地域の指導者、市役所、地元の警察や教会などと協力し、子どもクラブの活動を実施しました。7～12歳児向けに26のクラブ、13～20歳の青少年向けに11のクラブが結成され、それぞれ744人の子どもたちと344人の青少年が参加しています。音楽、絵画、版画、ダンス、算数、言語といった課外活動的な内容だけでなく、ハンモック作り、宝飾類(イヤリング、プレスレット、ネックレス)作り、パン作り、理容技術の指導が行われ、子どもたちの将来の仕事や生活につながるよう工夫がされています。また子どもクラブでは、地域の清掃活動やHIV/エイズ予防の内容を含む性教育も行っています。また、エルサルバドルは地震、火山活動、ハリケーン、地滑りといった自然災害が起こるため、災害時の対処方法についても教えています。



子どもクラブに参加する子どもたちが、手作りのジュエリーや織物などを展示し、地域の人々に見てもらいました



ハンモック作りの指導を受ける青少年たち

## 21歳以上(成人)を対象とした事業

サンアグスティンは人口6,000人弱でそれほど大きな市ではなく、人々も点在して暮らしています。貧困率は高く、エルサルバドルの基準によると、サンアグスティン地域の約66%が貧困層(うち約47%は極貧層)とみなされます。「マチスモ」と呼ばれるラテンアメリカ特有の男性優位の文化が根底にあり、特に女性が言動において全面に出ていく機会は制限されています。このような状況により、地域の目指すべき姿を示し、周りを引っ張っていくような指導者が、なかなか地域では育ちませんでした。この課題に対して、ADPは今年度「あなたが置かれた場でリーダーとなりなさい」という名の研修をワールド・ビジョンが開催し、26人の地域住民が参加しました。自己分析や自分の置かれた環境(家庭、職場、地域など)を捉え直し、その場で自分が果たすべき役割を再確認し、行動計画を立てていくという内容です。研修には若者も多く参加し、地域の開発を考える上で彼らがより積極的に発言をし、また行政関係者をはじめとする地域の大人たちも彼らの発言に耳を傾け、良いものは取り入れていくことを確認し合いました。



研修には市長(写真右端の男性)も参加し、若者や地域の代表者たちとともに意見交換をしました



研修のテキストを見せるエリカちゃん。彼女はサンアグスティン市が主催する子ども議会のメンバーでもあります



## スポンサーシップ・マネジメント・プログラム

「スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト」では、チャイルドとの手紙の交流や毎年の成長報告などを通して、支援の成果を実感していただくための活動を行っています。そのため、チャイルドの成長を定期的にモニタリングし、支援事業がチャイルドとその家族、さらに地域の人々の生活をどのように改善しているのか確認を行っています。また、チャイルドの家族や地域の人たちが「子どもを中心とした開発」を理解し、その支援活動の中心を担っていくような啓発活動も行っています。

### ワールド・ビジョンとともに成長するスルマちゃん

スルマちゃん(13歳)は幼い時に、両親に連れられてサンアグスティン地域に引っ越してきました。両親は、貧しい生活から抜け出すために、サンアグスティンという新たな地での生活を決めましたが、残念ながらお父さんは家族を捨てて出ていき、お母さんとスルマちゃんを含む4人の子どもたちが残されました。ADPスタッフであるヴィダイルによると、初めてスルマちゃんに会ったとき、彼女はとても神経質な表情を浮かべ、無口で恥ずかしがり屋で、同年代の子どもたちとなかなか関わろうとしないような子でした。



ADPが実施した絵画教室に参加し、講師の説明に耳を傾けるスルマちゃん(オレンジのTシャツを着た女の子)

スルマちゃんは、現在ADPが主催する子どもクラブの活動に参加し、言語や算数の学習のほか、絵画や音楽、手工芸を通して自分自身を表現すること、自己評価(セルフイメージ)を高めること、そしてほかの子どもたちや地域を支えるために貢献することを学んでいます。ADPの活動に参加して以来、彼女は家族との関係

をより良いものにし、自己表現も上手になりました。スルマちゃんは、彼女の通う学校の中でも特に絵が上手な子どもとして有名です。これまでに独立記念日、世界水の日、世界エイズデーなどにちなんだ絵画コンクールで賞をとっています。このことは彼女の中に自信を芽生えさせ、彼女は今ではサンアグスティン市の文化庁主催の絵画教室にも参加し、技術を向上させるとともにほかの子どもたちに絵を教えています。絵画教室やコンクールを通して、別の市町村に住む様々な年齢の人々と交流する機会も得ることができ、彼女自身の性格も昔に比べ明るく社交的に変わってきました。今年度スルマちゃんは、サンアグスティン市の子ども議会の代表メンバーに選ばれるまでになりました。11人のほかのメンバーとともに、彼女はサンアグスティン地域において、子どもの権利がしっかりと守られていくよう発言をしていきます。彼女のさらなる成長と地域への貢献に期待しつつ、ワールド・ビジョンは引き続き、ほかの多くの「スルマちゃん」が育つよう支援していきます。



世界エイズデーを題材にした絵画コンテストに出展し、銀賞を受賞したスルマちゃん(写真中央)

お問い合わせ

特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン

電話 : 03-5334-5351 FAX : 03-5334-5359

e-mail : [dservice@worldvision.or.jp](mailto:dservice@worldvision.or.jp) ホームページ : [www.worldvision.jp](http://www.worldvision.jp)

ワールド・ビジョン・ジャパンの活動についての最新情報を掲載してあります。ホームページにぜひお立ち寄りください。

# プログラム近況報告

エルサルバドル共和国 サンアグスティン地域開発プログラム(SLV-190776)

2013年度(2012年10月1日～2013年9月30日)

## 子どもたちの健やかな成長を「子育て指導員」が支えています

サンアグスティン地域開発プログラム(以下、ADP)では、ほかの国のADPとは少し異なり、子どもの年齢と成長に合わせた形で各プロジェクトを計画しています。特に乳幼児期にどのような栄養をとり、どのような健康状態であったかは子どものその後の発育に大きな影響を与えるため、0～6歳を対象とした事業はADPの中でも大変重要な役割を果たしています。地域内では「子どもの健康・栄養状態改善サークル(以下、CBSN<sup>※</sup>)」の数が30にまで達し、各サークルに参加する親たちの中から「子育て指導員」が選ばれ、栄養バランスのとれた食事の調理方法、母乳育児、予防接種、呼吸器疾患や下痢の予防・対応方法など、健康管理全般に関する知識がほかの親たちへと普及されています。ワールド・ビジョンでは、日本にスポンサーがいるチャイルドだけでなく、地域の子どもたちすべてに支援を届けたいと願っていますが、「子育て指導員」はその願いを実現するために、ともに働いてくれている私たちの大切なパートナーです。

※CBSN：Circuitos de Buena Salud y Nutrición というスペイン語名の略



CBSNに参加し、栄養バランスのとれた食事をする子どもたち



ADPの研修を受けた子育て指導員が、地域の5歳以下の子どもたちの体重を計測している様子

## チャイルド・スポンサーの皆さま

日ごろより、チャイルド・スポンサーシップを通して、温かいご支援を賜りまして、心より感謝申し上げます。

2013年度の活動報告として「プログラム近況報告」と、チャイルドの「成長報告」をお届けいたします。昨年度も活動を進めることができましたのは、子どもたちを思い、継続的にご支援をくださる皆さまのおかげと、感謝しております。

この1年の地域支援における活動の成果、今後の課題をご確認いただくとともに、チャイルドの成長をともに喜んでいただけますと幸いに存じます。

皆さまのチャイルド、そしてすべての子どもたちが健やかに成長できる地域となることを目指し、活動を続けてまいります。

皆さまの尊いご協力を、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



特定非営利活動法人  
ワールド・ビジョン・ジャパン  
常務理事・事務局長

片山 信彦



## ADPマネージャーからのごあいさつ

子どもたちやその家族、地域の人々の生活に喜びの種を蒔くことができることを感謝するとともに、サンアグスティンADPより、このように皆さまにごあいさつできることを、心より嬉しく思います。

日々の仕事の中で、子どもたちが健康に遊び、走り、幸せそうに学校に通っている姿を見ることは大きな喜びです。私たちADPスタッフは、村々を訪れ、そこに住む人々が抱える問題や必要に対する解決策をともに考えていますが、そのときにいつも思われることは、日本の皆さまからのご支援なくして私たちの働きは何も実現できないということです。これからも皆さまのご支援をさらに多くの子どもたちに届けていくとともに、スポンサーの皆さまにも、よりご満足いただける活動を進めていきたいと思っております。

フェリックス・ロダス (サンアグスティンADPマネージャー)



## 0～6歳を対象とした事業

エルサルバドルでは行政が就学前教育を公教育の一環として提供することになっているものの、現実には約55%の子どもたちにしか就学前教育が行き届いていません。これはほかのラテンアメリカ諸国の平均が、約70%であることを考えても非常に低い値です。サンアグスティン地域では、ADPにより7つの就学前教育センター(幼稚園に相当するもの)が整備され、就学前教育を受ける子どもたちの割合が、支援開始当初の53%から63%に向上してきました。この値もまだ十



就学前教育センターで学ぶ子どもたち。小学校での生活や勉強に抵抗なく慣れるためにも、就学前教育は非常に大切です



学校に備え付けられた水タンクと子どもたち

分とは言えず、引き続き就学前教育センターへの教材提供、教師への研修、親や保護者に対して教育の重要性を説く啓発活動などに力を入れていきます。

また、今年度は地域内の学校(就学前教育センターと小学校)に対して、水のタンク(容量:450リットル)を支援しました。生徒数に対して飲用および手洗い用の水が不足していることをADPスタッフが聞き、今回の支援に結びつきました。子どもたちの健康状態の改善につながると、学校関係者や保護者たちから、支援に対する感謝の声が多く寄せられています。

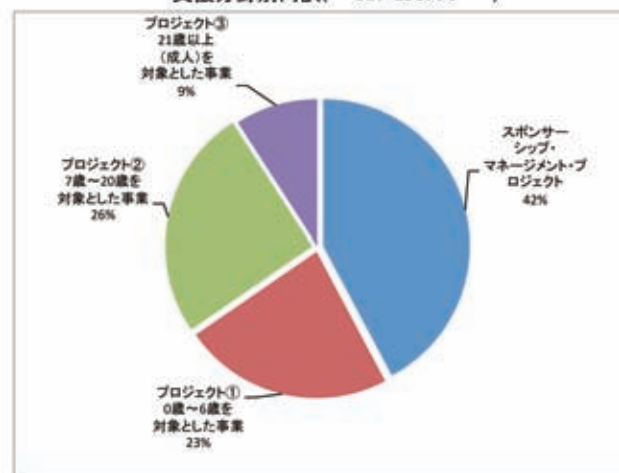
### 会計報告

#### 収支計算書

自 2012年10月1日 至 2013年9月30日

SLV-190776 (単位:円)	
プログラム支援額	
チャイルド・スポンサーシップ	26,955,936
当期支援額	26,955,936
前期繰越金	-89,197
プログラム支援額合計	26,866,739
プログラム支出額	
スポンサーシップ・マネージメント・プロジェクト	10,753,728
プロジェクト①0歳～6歳を対象とした事業	5,900,618
プロジェクト②7歳～20歳を対象とした事業	6,488,015
プロジェクト③21歳以上(成人)を対象とした事業	2,318,853
プログラム支出額合計	25,461,214
次期繰越額	1,405,525

### 支援分野別内訳( SLV-190776 )





## 7～20歳を対象とした事業

今年度も、地域の指導者、市役所、地元の警察や教会などと協力し、子どもクラブの活動を実施しました。7～12歳児向けに26のクラブ、13～20歳の青少年向けに11のクラブが結成され、それぞれ744人の子どもたちと344人の青少年が参加しています。音楽、絵画、版画、ダンス、算数、言語といった課外活動的な内容だけでなく、ハンモック作り、宝飾類(イヤリング、ブレスレット、ネックレス)作り、パン作り、理容技術の指導が行われ、子どもたちの将来の仕事や生活につながるよう工夫がされています。また子どもクラブでは、地域の清掃活動やHIV/エイズ予防の内容を含む性教育も行っています。また、エルサルバドルは地震、火山活動、ハリケーン、地滑りといった自然災害が起こるため、災害時の対処方法についても教えています。



子どもクラブに参加する子どもたちが、手作りのジュエリーや織物などを展示し、地域の人々に見てもらいました



ハンモック作りの指導を受ける青少年たち

## 21歳以上(成人)を対象とした事業

サンアグスティンは人口6,000人弱でそれほど大きな市ではなく、人々も点在して暮らしています。貧困率は高く、エルサルバドルの基準によると、サンアグスティン地域の約66%が貧困層(うち約47%は極貧層)とみなされます。「マチスモ」と呼ばれるラテンアメリカ特有の男性優位の文化が根底にあり、特に女性が言動において全面に出ていく機会は制限されています。このような状況により、地域の目指すべき姿を示し、周りを引っ張っていくような指導者が、なかなか地域では育ちませんでした。この課題に対して、ADPは今年度「あなたが置かれた場でリーダーとなりなさい」という名の研修をワールド・ビジョンが開催し、26人の地域住民が参加しました。自己分析や自分の置かれた環境(家庭、職場、地域など)を捉え直し、その場で自分が果たすべき役割を再確認し、行動計画を立てていくという内容です。研修には若者も多く参加し、地域の開発を考える上で彼らがより積極的に発言をし、また行政関係者をはじめとする地域の大人たちも彼らの発言に耳を傾け、良いものは取り入れていくことを確認し合いました。



研修には市長(写真右端の男性)も参加し、若者や地域の代表者たちとともに意見交換をしました



研修のテキストを見せるエリカちゃん。彼女はサンアグスティン市が主催する子ども議会のメンバーでもあります



## スポンサーシップ・マネジメント・プログラム

「スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト」では、チャイルドとの手紙の交流や毎年の成長報告などを通して、支援の成果を実感していただくための活動を行っています。そのため、チャイルドの成長を定期的にモニタリングし、支援事業がチャイルドとその家族、さらに地域の人々の生活をどのように改善しているのか確認を行っています。また、チャイルドの家族や地域の人たちが「子どもを中心とした開発」を理解し、その支援活動の中心を担っていくような啓発活動も行っていきます。

## ワールド・ビジョンとともに成長するスルマちゃん

スルマちゃん(13歳)は幼い時に、両親に連れられてサンアグスティン地域に引っ越してきました。両親は、貧しい生活から抜け出すために、サンアグスティンという新たな地での生活を決めましたが、残念ながらお父さんは家族を捨てて出ていき、お母さんとスルマちゃんを含む4人の子どもたちが残されました。ADPスタッフであるヴィダイルによると、初めてスルマちゃんに会ったとき、彼女はとても神経質な表情を浮かべ、無口で恥ずかしがり屋で、同年代の子どもたちとなかなか関わろうとしないような子でした。



ADPが実施した絵画教室に参加し、講師の説明に耳を傾けるスルマちゃん(オレンジのTシャツを着た女の子)

スルマちゃんは、現在ADPが主催する子どもクラブの活動に参加し、言語や算数の学習のほか、絵画や音楽、手工芸を通して自分自身を表現すること、自己評価(セルフイメージ)を高めること、そしてほかの子どもたちや地域を支えるために貢献することを学んでいます。ADPの活動に参加して以来、彼女は家族との関係

をより良いものにし、自己表現も上手になりました。

スルマちゃんは、彼女の通う学校の中でも特に絵が上手な子どもとして有名です。これまでに独立記念日、世界水の日、世界エイズデーなどにちなんだ絵画コンクールで賞をとっています。このことは彼女の中に自信を芽生えさせ、彼女は今ではサンアグスティン市の文化庁主催の絵画教室にも参加し、技術を向上させるとともにほかの子どもたちに絵を教えています。絵画教室やコンクールを通して、別の市町村に住む様々な年齢の人々と交流する機会も得ることができ、彼女自身の性格も昔に比べ明るく社会的に変わってきました。今年度スルマちゃんは、サンアグスティン市の子ども議会の代表メンバーに選ばれるまでになりました。11人のほかのメンバーとともに、彼女はサンアグスティン地域において、子どもの権利がしっかりと守られていくよう発言をしていきます。彼女のさらなる成長と地域への貢献に期待しつつ、ワールド・ビジョンは引き続き、ほかの多くの「スルマちゃん」が育つよう支援していきます。



世界エイズデーを題材にした絵画コンテストに出展し、銀賞を受賞したスルマちゃん(写真中央)

お問い合わせ

特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン

電話 : 03-5334-5351 FAX : 03-5334-5359

e-mail : [dservice@worldvision.or.jp](mailto:dservice@worldvision.or.jp) ホームページ : [www.worldvision.jp](http://www.worldvision.jp)

ワールド・ビジョン・ジャパンの活動についての最新情報を掲載してあります。ホームページにぜひお立ち寄りください。